

## 看護学科 1年後期 専門基礎科目／専門科目

1. 病態生理学
2. 成人・高齢者疾病治療管理論 I
3. 成人・高齢者疾病治療管理論 II
4. 薬剤治療管理論
5. 健康と法律
6. 看護技術論 II
7. 臨床推論
8. 回復促進援助技術論
9. 臨床看護概論
10. 精神看護学概論
11. 成人看護学概論
12. 高齢者看護学概論
13. 小児看護学概論
14. 母性看護学概論
15. 地域・在宅看護学援助論
16. 基礎看護学実習 I

## 看護学科

科目名: 病態生理学				担当教員 氏名: 甲野 裕之		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
1	1年次 後期	専門基礎科目	演習	必修		
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
根拠に基づいた確かな看護をするために、病気の原因や経過などの病気の成り立ちを、先天異常、物質代謝障害、炎症、免疫の異常、腫瘍などの病変カテゴリーに分類して学ぶ。					病気の成り立ち、先天異常、物質代謝障害、炎症、免疫異常、腫瘍	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 9	
A 知識・理解力	看護に活用される理論、技術を身につけるために、病気の成り立ちを理解する					
B 専門的技術	専門的看護技術を修得するために、病気の成り立ちを理解する					
C 論理的思考力	病気の成り立ちを理解し、看護の理論や技術を論理的に説明できる能力を養う					
F チームワーク・リーダーシップ	医療チームの一員であることを認識し、看護師の役割を理解する					
G 倫理観	病気を理解することにより、病める人の心を理解し、医療に携わる者としての倫理観を身につける					
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 90 %	レポート: %	発表: %	実技試験: %	その他: 10 %		
特記事項: その他の10%は授業の受講態度、小テストの結果による。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学修      ディスカッション、ディベート <b>グループワーク</b> プレゼンテーション      実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 適宜小テストを行い、テスト問題の解説を行う。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
①病理学の領域、細胞・組織				【予習】教科書(病理学の領域、細胞・組織)を読む。 【復習】病理学の領域、細胞・組織の復習	【予習】60分 【復習】60分	
②細胞・組織の障害、再生と修復、炎症(概念、関与する細胞・因子)				【予習】教科書(細胞・組織の障害、再生と修復、炎症)を読む。【復習】細胞・組織の障害、再生と修復、炎症の復習	【予習】60分 【復習】60分	
③炎症(急性炎症、慢性炎症)				【予習】教科書(炎症)を読む。 【復習】炎症の復習	【予習】60分 【復習】60分	
④免疫とアレルギー(1)(免疫系の仕組みと働き)				【予習】教科書(免疫とアレルギー)を読む。 【復習】免疫とアレルギーの復習	【予習】60分 【復習】60分	
⑤免疫とアレルギー(2)(免疫が関与する疾患)				【予習】教科書(免疫とアレルギー)を読む。 【復習】免疫とアレルギーの復習	【予習】60分 【復習】60分	
⑥感染症				【予習】教科書(感染症)を読む。 【復習】感染症の復習	【予習】60分 【復習】60分	
⑦循環障害(1)(充血、うっ血、出血、血栓症、塞栓症、梗塞)				【予習】教科書(循環障害)を読む。 【復習】循環障害の復習	【予習】60分 【復習】60分	
⑧循環障害(2)(浮腫、ショック、高血圧)				【予習】教科書(循環障害)を読む。 【復習】循環障害の復習	【予習】60分 【復習】60分	
⑨代謝異常(1)(糖質代謝異常、脂質代謝異常)				【予習】教科書(代謝異常)を読む。 【復習】代謝異常の復習	【予習】60分 【復習】60分	
⑩代謝異常(2)(たんぱく質代謝異常、核酸代謝異常)				【予習】教科書(代謝異常)を読む。 【復習】代謝異常の復習	【予習】60分 【復習】60分	
⑪老化と老年病、新生児の病理				【予習】教科書(老化と老年病、新生児の病理)を読む。 【復習】老化と老年病、新生児の病理の復習	【予習】60分 【復習】60分	
⑫先天異常				【予習】教科書(先天異常)を読む。 【復習】先天異常の復習	【予習】60分 【復習】60分	
⑬腫瘍(1)(腫瘍の分類、悪性腫瘍と良性腫瘍)				【予習】教科書(腫瘍)を読む。 【復習】腫瘍の復習	【予習】60分 【復習】60分	
⑭腫瘍(2)(腫瘍の原因と発生メカニズム)、生命の危機				【予習】教科書(腫瘍、生命の危機)を読む。 【復習】腫瘍、生命の危機の復習	【予習】60分 【復習】60分	
⑮まとめ				【予習】病理学全体の復習をする。	【予習】120分	
使用テキスト: 使用テキスト: カラーで学べる病理学(ヌーベルヒロカワ)、渡辺照男著、ISBN978-4-86174-062-6				その他参考文献など: 図書館の病理学関連図書		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 準備学習(予習・復習等)をしっかりと行ってください。						

## 看護学科

科目名: 成人・高齢者疾病治療管理論 I				担当教員 氏名: 下条 竜一、垣内 大毅、梅原 康次、吉江和佳、吉本英生		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次	後期	専門基礎科目	講義	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 医師の実務経験を活かして、疾病と治療の現状について教授する。						
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
成人・高齢者の疾病について、主として外科的治療の対象となる運動器疾患・消化器疾患・スキンケア・女性生殖器・麻酔と術前・術後管理について基礎から臨床に到る考え方を学び、臨床における運動器疾患・消化器疾患・スキンケア・女性生殖器・麻酔と術前・術後管理の取り組み方を学ぶ						外科系疾患, 外科的治療
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (短マトリックスで示される番号)		2. 3. 5. 6. 7. 8.	
A 知識・理解力			外科的治療の対象となる皮膚科学・運動器疾患・消化器疾患・女性生殖器・麻酔と術前・術後管理を習得することができる			
C 論理的思考力			皮膚科学・運動器疾患・消化器疾患・女性生殖器・麻酔と術前・術後管理の基礎と臨床両面から分析し表現できる			
D 問題解決力			皮膚科学・運動器疾患・消化器疾患・女性生殖器・麻酔と術前・術後管理を収集・分析・整理して問題を解決できる			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 90 %	レポート: %	発表: %	実技試験: %	その他: 10 %		
特記事項:「その他」の10%は授業での参加姿勢や努力を評価する。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学修      ディスカッション、ディベート      グループワーク      プレゼンテーション      実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
①【下条】運動器の疾病と治療 (1)				(予習)テキストの該当箇所を読む (復習)復習	【予習】60分 【復習】100分	
②【下条】運動器の疾病と治療 (2)				(予習)テキストの該当箇所を読む (復習)復習	【予習】60分 【復習】120分	
③【垣内】消化器疾患の疾病と治療 (1)				(予習)テキストの該当箇所を読む (復習)復習	【予習】60分 【復習】120分	
④【垣内】消化器疾患の疾病と治療 (2)				(予習)テキストの該当箇所を読む (復習)復習	【予習】60分 【復習】120分	
⑤【梅原】外科総論				(予習)テキストの該当箇所を読む (復習)復習	【予習】60分 【復習】120分	
⑥【梅原】褥瘡の病態生理と治療				(予習)テキストの該当箇所を読む (復習)復習	【予習】60分 【復習】120分	
⑦【吉江】麻酔と術前・術後管理				(予習)テキストの該当箇所を読む (復習)復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑧【吉本】女性生殖器の疾病と治療				(予習)テキストの該当箇所を読む (復習)復習	【予習】30分 【復習】30分	
使用テキスト: 疾病と看護③消化器ISBN978-4-8404-6899-2(MCメディカ出版) 疾病と治療⑦運動器ISBN978-4-8404-6903-6(MCメディカ出版) 疾病と看護⑥眼/耳鼻咽喉/歯・口腔/皮膚ISBN978-4-8404-6901-2(MCメディカ出版) 疾病と看護⑨女性生殖器ISBN978-4-8404-6905-0(MCメディカ出版) 成人看護学④周術期看護、ISBN978-4-8404-7539-6(メディカ出版)				その他参考文献など: ・疾病と治療(南江堂)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): テキスト以外にも随時プリントなどを配布しますが、授業中に過去の配布物を参照する場合がありますので紛失しないように各自管理すること						

## 看護学科

科目名: 成人・高齢者疾病治療管理論Ⅱ			担当教員 氏名: 清水幸裕、加藤弘巳、原田 淳、 刀塚 俊起、 佐々木 彰一、榎本 洸、二村 明広			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次	後期	専門基礎科目	講義	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:			医師の実務経験を活かして、疾病と治療の現状について教授する。			
授業科目の学修教育目標の概要:					キーワード	
成人・高齢者の疾病について、主として医学診断の考え方と方法を学ぶ。さらに、内科的治療の立場から各疾患の原因、病態、検査、診断、治療、予後について教授する。主に、脳神経系疾患、呼吸器系疾患、循環器系疾患、血液・造血器疾患、免疫疾患、感染症、消化器疾患、内分泌疾患、代謝・栄養疾患、腎・泌尿器疾患の治療と予後及び管理について学ぶ。					内科系疾患、内科的治療	
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリクスで示される番号)		2. 3. 5. 6. 8	
A 知識・理解力			学んだ知識を繋いで看護に生かすことができるように、疾患の知識を体系的に理解する			
C 論理的思考力			すでに学んだ解剖学・生理学の知識を活用して疾患とその診断、治療、予後及び管理について理解する			
D 問題解決力			主として医学診断の考え方と方法を学ぶことで問題解決力を高める			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 80 %		レポート: 20 %		発表: %		実技試験: %
その他: %						
特記事項: 主に小テスト、レポートにより評価するが、各担当講師により評価方法が異なる。それぞれの講義時に詳細について説明する。						
アクティブラーニング要素: (課題解決型学修) ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 下記参照のこと。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 【加藤・小林・二村・原田・榎本】別に定めた日時に試験を行い、採点后返却する【刀塚】講評を学生にメールでフィードバックする【佐々木】レポートで評価し、採点后返却する						
授 業 計 画				準備学修(予習・復習等)		
				学修内容	学修に必要な時間(分)	
①【佐々木】 医療の目的は何か。どのようにその目的を果たすか。				事前にすでに学んだ解剖・生理学の知識や観察の技術について復習しておく。		
②【榎本】 基本的な病歴聴取の方法						
③【佐々木】 身体診察の方法				講義の内容から試験を行うので配布資料を必ず復習する。		
④【佐々木】 呼吸器の働きと呼吸器疾患 (他にレポート課題あり)						
⑤【刀塚】 感染症・免疫疾患と治療				事前に循環器の解剖生理を復習し、事後は配布資料を熟読して知識の整理を行う。		
⑥【刀塚】 血液疾患と治療						
⑦【榎本】 心臓の生理機能				事前に該当範囲のテキストを熟読し、事後は配布資料を熟読して知識の整理を行う。		
⑧【榎本】 心疾患、特に虚血性心疾患、心不全、不整脈に関する病態生理と治療						
⑨【二村】 腎臓の生理 腎疾患、特に糸球体腎炎と血液透析について:				事前に脳、神経、感覚器の解剖・整理について復習しておく。教室の模型を見ておく。		
⑩【清水】 食道、胃、小腸、大腸、肝、胆、膵疾患について提示する						
⑪【加藤】 下垂体、甲状腺、副腎、その他の内分泌疾患について提示する				予習60分 復習60分		
⑫【加藤】 糖尿病、その他の代謝・栄養疾患について						
⑬【原田】 脳・神経系の解剖、機能の総論				予習60分 復習60分		
⑭【原田】 内科的治療、看護を行う脳・神経系疾患の各論						
⑮【原田】 外科的治療、看護を行う脳・神経系疾患の各論						
使用テキスト: (MCメディカ出版) 疾病と看護①呼吸器ISBN978-4-8404-6897-8 疾病と看護②循環器ISBN978-4-8404-6898-5 疾病と看護③消化器ISBN978-4-8404-6899-2 疾病と看護④血液/アレルギー・膠原病/感染症ISBN978-4-8404-6900-5 疾病と治療⑤脳・神経ISBN978-4-8404-6901-2 疾病と看護⑧腎/泌尿器/内分泌・代謝ISBN978-4-8404-6904-3				その他参考文献など: 師国家試験問題集、「病気がみえる」メディックメディア		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): この授業で扱う内容は、臨床で数多く遭遇する疾患であるので、しっかり学んでほしい。						

## 看護学科

科目名: 薬剤治療管理論				担当教員 氏名: 甲野 裕之		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次	後期	専門基礎科目	講義	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:						
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
病気の予防、治療、診断に用いられる薬物の作用メカニズム、体内における薬物動態(吸収、分布、代謝、排泄)、薬物の副作用、薬物の安全な投与方法、薬物の管理方法などを学ぶ。						医薬品、薬理作用、薬物動態、薬物有害反応
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (短短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 9	
A 知識・理解力			看護に活用される理論、技術を身につけるために、医薬品について理解する			
B 専門的技術			専門的看護技術を修得するために、疾病に使用される薬について理解する			
C 論理的思考力			疾病に使用される薬を理解し、看護理論や技術を論理的に説明できる能力を養う			
F チームワーク・リーダーシップ			医療チームの一員であることを認識し、看護師の役割を理解する			
G 倫理観			疾病に使用される薬の作用や副作用などを理解し、病める人の心を理解し、医療に携わる者としての倫理観を身につける			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 90 %		レポート: %		発表: %		実技試験: %
						その他: 10 %
特記事項: その他の10%は授業の受講態度、小テストの結果による。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習      ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション      実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 適宜小テストを行い、テスト問題の解説を行う。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容		学習に必要な時間(分)
①薬理学の概説、薬理学の基礎知識、自律神経系に作用する薬物				【予習】教科書(第1章、第2章、第7章)を読む。 【復習】薬理学基礎知識の復習		【予習】60分 【復習】60分
②中枢神経系に作用する薬物				【予習】教科書(第8章)を読む。 【復習】中枢神経系に作用する薬物の復習		【予習】60分 【復習】60分
③抗がん薬				【予習】教科書(第4章)を読む。 【復習】がん治療に使用する薬物の復習		【予習】60分 【復習】60分
④抗感染症薬				【予習】教科書(第3章)を読む。 【復習】中枢神経系に作用する薬物の復習		【予習】60分 【復習】60分
⑤抗炎症薬、抗アレルギー薬、免疫治療薬				【予習】教科書(第5章、第6章)を読む。 【復習】炎症、免疫疾患に使用する薬物の復習		【予習】60分 【復習】60分
⑥循環器系に作用する薬物				【予習】教科書(第9章)を読む。 【復習】循環器、呼吸器に作用する薬物の復習		【予習】60分 【復習】60分
⑦呼吸器系、消化器系に作用する薬物				【予習】教科書(第10章)を読む。 【復習】呼吸器、消化器系に作用する薬物の復習		【予習】60分 【復習】60分
⑧その他の疾患に使用する薬物				【予習】教科書(第10章、第11章)を読む。 【復習】種々の疾患に使用する薬物の復習		【予習】60分 【復習】60分
使用テキスト: :系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進 3 薬理学 (医学書院)、吉岡充弘著、ISBN978-4-260-04716-6				その他参考文献など: 図書館の薬理学関連図書		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 準備学習(予習・復習等)をしっかりと行ってください。						

## 看護学科

科目名： 健康と法律			担当教員 氏名： 炭谷英信、山元恵子、道谷真由美			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次	後期	専門基礎科目	講義	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか： 看護管理者・医療安全管理・社会福祉・公衆衛生行政等の経験を生かして関係法規の講義を行う						
授業科目の学修教育目標の概要：					キーワード	
<ul style="list-style-type: none"> <li>国民の健康と福祉・看護・医療に関わる関係法規について学ぶ。</li> <li>看護職として深くかかわっている法律の変遷と構造を理解する。</li> <li>専門職としての職務責任と役割を理解し、看護実践に活かせる。</li> </ul>					憲法第5条・人権・公衆衛生 福祉・社会保障・医療法 保健師助産師看護師法	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 8.		
A 知識・理解力		①健康にかかわる保健、医療、福祉・労働に関する法律の概要を理解する。 ②健康・福祉・衛生行政及び保健所の機能について理解する。				
C 論理的思考力		③保健師助産師看護師法の変遷と看護職の責務を理解する。				
D 問題解決力		④保健師助産師看護師法に基づく看護技術の拡大と将来必要となる資格制度を考察する。				
G 倫理観		⑤看護職として法に基づき公正な判断ができる。				
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 60 %	レポート： 30 %	発表： %	実技試験： %	その他： 10 %		
特記事項：評価のその他については、出席状況や授業内の主体的な姿勢を加味し評価する。						
アクティブラーニング要素： 課題解決型学修 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：各教員の単元終了後に定めた日時に実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法：テストや提出レポートに評価の数値化やコメントを記載して返却						
授 業 計 画				準備学修(予習・復習等)		
				学修内容	学修に必要な時間(分)	
①【道谷】健康にかかわる保健・医療に関する法律の概要				【予習】60分 【復習】60分	【予習】60分 【復習】60分	
②【道谷】健康にかかわる労働衛生に関する法律の概要					【予習】60分 【復習】60分	
③【道谷】健康にかかわる衛生行政と保健所の役割と概要					【予習】60分 【復習】60分	
④【山元】法概念、看護法					【予習】60分 【復習】60分	
⑤【山元】医事法					【予習】60分 【復習】60分	
⑥【炭谷】保険衛生法、薬務法					【予習】60分 【復習】60分	
⑦【炭谷】社会保険法、福祉法					【予習】60分 【復習】60分	
⑧【炭谷】労働法と社会基盤整備、環境法					【予習】60分 【復習】60分	
使用テキスト： ・系統看護学講座 看護関係法令健康支援と社会保障制度④ ISBN 978-4-260-05091-3 C3347 ・ナーシング・グラフィカ8 「公衆衛生」 ISBN 978-4-8404-4118-6 C3347				その他参考文献など： 国民衛生の動向		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： ・看護師を目指すものとして関係法規期の基礎知識と看護業務の関連を学習することは、「患者を守り、自分を守ること」です。						

## 看護学科

科目名: 看護技術論II			担当教員 氏名: 高橋絹代 米山美智代 泉朱子						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	1年次	後期	専門科目	講義	必修				
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 教員それぞれの実務経験を活かし、看護過程を理解できるように個別指導も実施									
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード			
基礎看護学実習Iを終えた後、病院実習を経験を基に看護過程を展開する。臨床での体験から理解の深度深める						看護過程 SOAP 関連図			
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6				
A 知識・理解力			看護過程の5つの枠組みを理解し、それぞれの実践を理解し展開できる						
C 論理的思考力			意図的な情報収集を行うために、適切なアセスメントを行うことができる						
D 問題解決力			アセスメントに基づき、看護問題、共同問題を導きだすことができる						
B 専門的技術			患者の援助について理解し、適切に課題を挙げ計画を展開を身に付ける						
G 倫理観			患者の援助に関して倫理的思考で考え対応できる						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	60 %	発表:	40 %	実技試験:	%	その他:	%
特記事項: 基礎看護実習1での学びを活かし看護過程の学修を行います。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: ワークシートを用いて看護過程を展開し、ワークシート内で適宜指導を行う									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
①【高橋】看護過程とは				看護過程とは何か、意義と5つのステップを理解する	予習60分	復習60分			
②【高橋】情報収集				ワークシートを用いて患者の全体像を捉える	予習60分	復習60分			
③【高橋】情報収集				患者とのコミュニケーションの場面を書き出し、「S情報」「O情報」を理解。SOAPを理解する	予習60分	復習60分			
④【高橋】情報収集				情報から病態関連図と患者関連図を描き看護問題を明らかにする	予習60分	復習60分			
⑤【泉】ゴードンの11パターンの理解				ゴードンの11パターンはそれぞれに必要な情報を理解する	予習60分	復習60分			
⑥【泉】ゴードンの11パターン				担当患者はどこが問題であったか理解する	予習60分	復習60分			
⑦【米山】看護診断				看護診断の要素を理解する	予習60分	復習60分			
⑧【米山】看護診断				看護診断の優先順位の付け方を理解する	予習60分	復習60分			
⑨【米山】看護診断				受持ち患者の情報から看護診断をつける	予習60分	復習60分			
⑩【泉】看護計画				受持ち患者の看護診断から看護計画の立案を行う	予習60分	復習60分			
⑪【泉】看護計画				看護計画の目標と期待される結果を記載できる	予習60分	復習60分			
⑫【泉】看護計画				看護計画の実施・評価方法を理解する	予習60分	復習60分			
⑬【高橋】発表準備				②～⑫について発表を行うにあたり、個々に発表準備を行う	予習60分	復習60分			
⑭【高橋】受持ち患者の看護診断と看護計画 発表				問題とした事柄を看護診断で表し、作成した看護計画と共に発表					
⑮【高橋】受持ち患者の看護診断と看護計画 発表				問題とした事柄を看護診断で表し、作成した看護計画と共に発表					
使用テキスト: 有田清子ら, 系統看護学講座; 専門分野, 基礎看護技術 I 第19版 978-4-260-04992-4, 基礎看護学. リンダJ.カルペニート著: 看護診断ハンドブック第12版 医学書院 ISBN978-4-260-05021-0				その他参考文献など: 上野栄一、西田直子; 看護診断の看護過程ガイド, ゴードンの機能的健康パターンに基づくアセスメント, 中央法規, ISBN978-4-8058-8748-6..					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): それぞれが体験した 事例であり、個別性があります。不明な点は是非どんと教員に聞いてください。複数体制で支援します。									

## 看護学科

1年

科目名: 臨床推論				担当教員氏名: 高田 亮子					
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	1年次	後期	専門科目	講義	必修				
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:			看護の臨床経験から、対象の看護診断を導く基礎となる論理的思考の考え方(臨床判断と推論)及びその実際の技術について教授する。						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
看護は、健康障害をもつ人の生活上の問題に、対象が自らのもてる力で対応できるように支援することである。対象のもつ問題を批判的思考と論理的思考を用いて看護診断を推論検証できる思考法を身につけ、状況を全体的に俯瞰しつつ、看護診断を特定していく。看護実践上の思考手段として活用できるための基礎とする。					問題解決技法 論理的思考(ロジカルシンキング) 批判的思考(クリティカルシンキング) 看護診断				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6					
A 知識・理解力		問題解決技術における論理的思考の基礎となる知識を修得できる。対象へのヘルスニーズを判断するために必要な基礎知識を習得でき、看護の対象である人々々の健康問題を対象とともに解決できるクリティカルシンキングにつなげる基礎とする。							
B 専門的技術		論理的思考の技術を習得できる。							
D 問題解決力		科学的・分析的思考過程を理解することができる。							
E 自己管理能力		個人ワークを通して、論理的思考を理解することができる。							
F チームワーク・リーダーシップ		個人ワークをもとに自ら考える力を養い、根拠のある意見がもて、ディベートを通して発言力を養う。							
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学期および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	30 %	発表:	10 %	演習:	50 %	その他:	10 %
特記事項: 上記の「その他:10%」については、授業での参加姿勢(出席状況)や取り組み姿勢を評価する。									
アクティブラーニング要素: 課題解決学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 初回の講義の際に伝える。適宜、レポートによる課題を提示する。テーマや提出日は講義内に伝える。グループワーク、課題学習、演習(実技)を行う。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 提出された課題は確認し不足等の指摘を行なったうえで点数化し、評価に含める。									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容		学習に必要な時間(分)			
①【高田】臨床推論とは何か、イメージ				テキスト・ナーシングスキル等の確認 課題プリント		【予習】60分 【復習】60分			
②【高田】推論とは何か、推論の種類				テキスト・ナーシングスキル等の確認 課題プリント		【予習】60分 【復習】60分			
③【高田】タナーの臨床判断モデル概要				テキスト・ナーシングスキル等の確認 課題プリント		【予習】60分 【復習】60分			
④【高田】臨床判断モデルと具体例				テキスト・ナーシングスキル等の確認 課題プリント		【予習】60分 【復習】60分			
⑤【高田】気づきと3つの推論				テキスト・ナーシングスキル等の確認 課題プリント		【予習】60分 【復習】60分			
⑥【高田】事例の臨床推論、内容と構造				テキスト・ナーシングスキル等の確認 課題プリント		【予習】60分 【復習】60分			
⑦【高田】事例展開と統合				テキスト・ナーシングスキル等の確認 課題プリント		【予習】60分 【復習】60分			
⑧【高田】発表会 まとめ				テキスト・ナーシングスキル等の確認 課題プリント		【予習】60分 【復習】60分			
使用テキスト: 臨床看護総論 基礎看護学④ 医学書院 ISBN978-4-260-04700-5(臨床看護概論と同様)				その他参考文献など: 1.解剖生理学(メディカ出版) 2.疾患と看護①呼吸器②循環器③消化器④血液/アレルギー・膠原病/感染症⑤脳・神経⑦運動器⑧腎/泌尿器/内分泌・代謝(メディカ出版)					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): この授業は、看護の問題解決思考の中核である診断を構成している要素について学びます。思考するプロセスを学ぶ科目です。論理的思考(ロジカルシンキング)を身につけ、さらに批判的思考(クリティカルシンキング)をもとに看護実践能力の基盤となる知識と技術を学びます。									

## 看護学科

科目名： 回復促進援助技術論			担当教員 氏名： 高橋絹代・稲垣尚恵・泉朱子・炭谷英信			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次	後期	専門科目	演習	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか： 各教員の臨床における実務経験を活かし、知識、基本技術の正確な習得が行える授業を行う						
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード	
回復を促進するための看護技術(環境、食事、排泄、清潔、呼吸循環、創傷、与薬、感染防止、安全、死後のケア)を、根拠に基づき安全に実践できる基礎的能力を身につける					回復促進 安全・安楽 根拠に基づく 尊厳の保持 個別性 健康障害	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 3. 5. 6. 9.	
A 知識・理解力			回復促進援助に必要な基礎知識を理解し、守るべき基本を元に、根拠に基づいた援助について考え、実践することができる			
B 専門的技術			専門知識を獲得し、回復促進に関わる技術を安全に実践できる			
E 自己管理能力			事前課題を計画的に実施し、提出期限を守ることができる			
F チームワーク・リーダーシップ			演習はグループ活動のため、効果的な学習効果が得られるように、リーダーやチームメンバーはそれぞれの役割を理解し協力しあうことができる			
C 論理的思考力			援助は対象者になぜ必要なのか、どのような工夫が可能なのか等、解剖や生理等既習の知識と統合させ論理的に考えることができる			
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 80 %	レポート： %	発表： %	実技試験： 20 %	その他： %		
特記事項：						
アクティブラーニング要素： 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：テストは中間と最終2回に分けて実施する。各40点づつ。実技テストは20点の配点とする。テストの実施はinfoclipperで連絡。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法：看護手順などの事前学習については1週間前にテーマを提示する。自分の手順を元に演習を実施する。演習終了後にレポートを回収し、確認後返却。必要な内容はレポートに添削しフィードバックを行う						
使用テキスト：使用テキスト：有田清子：系統別看護学講座：専門分野基礎看護技術Ⅱ、基礎看護学3、医学書院 ISBN978-4-260-04212-3。 任和子/井上順子編集：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院ISBN978-4-260-04790-6。 嶋森好子、山元恵子監修：写真でわかる看護現場で行う医療安全行動アドバンス、インターメディアISBN978-4-89996-455-1			その他参考文献など：			
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：演習が行える準備(髪No7以上、爪は掌側から見て見えない長さ、装飾品除去)を整える。						
授 業 計 画					準備学習(予習・復習等)	
					学習内容	学習に必要な時間(分)
回数						
1	【高橋】オリエンテーション			実習室1	学修内容と実施方法 評価方法	予習120分 復習 60分
2	【高橋】苦痛の緩和・安楽確保の技術(ポジショニング)			実習室1	教科書P152	予習120分 復習 60分
3	【稲垣】苦痛の緩和・安楽確保の技術：電法(講義)			実習室1	課題(温電法、冷電法の手順)	予習120分 復習 60分
4	【稲垣】苦痛の緩和・安楽確保の技術(電法)演習			実習室1	教科書P156～164	予習120分 復習 60分
5	【高橋】呼吸と循環を整える技術：酸素療法(講義)			実習室1	教科書P261～265 計算問題ミニテスト	予習120分 復習 60分

※前ページよりつづき

看護学科

科目名: 回復促進援助技術論		担当教員 氏名: 高橋絹代・稲垣尚恵・泉朱子・炭谷英信	
授 業 計 画		準備学習(予習・復習等)	
		学習内容	学習に必要な時間(分)
6	【高橋】呼吸と循環を整える技術:気道管理(講義)	実習室1	教科書P236~247 予習120分 復習60分
7	【高橋】呼吸と循環を整える技術:気道管理(演習)	実習室1	事前課題:ドレナージ、ハフィング、スクイーミング方法をレポート 予習120分 復習60分
8	【高橋】呼吸と循環を整える技術:吸入・体温管理・末梢循環促進ケア(演習)	実習室1	教科書P247~280 予習120分 復習60分
9	【高橋】呼吸と循環を整える技術:吸入・体温管理・末梢循環促進ケア(演習)	実習室1	メカニズムからケアに関するレポート作成 予習120分 復習60分
10	【泉】創傷管理技術:創傷管理の基礎知識(講義)	実習室1	教科書P284~311 予習120分 復習60分
11	【泉】創傷管理技術:創傷処置・褥瘡予防(演習/演習)	実習室1	教科書P284~311 予習120分 復習60分
12	【泉】与薬の技術:基礎・経口、口腔内与薬(講義)	実習室1	教科書P314~319 予習120分 復習60分
13	【泉】与薬の技術:基礎・経口、口腔内与薬(演習)	実習室1	教科書P314~319 予習120分 復習60分
14	【炭谷】与薬の技術:吸入・点眼・点鼻・経皮的与薬・直腸内与薬(講義)	実習室1	教科書P322~329 予習120分 復習60分
15	【炭谷】与薬の技術:吸入・点眼・点鼻・経皮的与薬・直腸内与薬(演習)	実習室1	教科書P322~329 予習120分 復習60分
16	【泉】与薬の技術:注射(講義)	実習室1	教科書P331~372 予習120分 復習60分
17	【泉】与薬の技術:注射(演習)	実習室1	教科書P331~372 予習120分 復習60分
18	【炭谷】与薬の技術:注射・輸血管理(講義)	実習室1	教科書P331~375 予習120分 復習60分
19	【炭谷】与薬の技術:注射・輸血管理(演習)	実習室1	教科書P331~375 予習120分 復習60分
20	【炭谷】救命救急処置技術(講義)	実習室1	教科書P384~404 予習120分 復習60分
21	【炭谷】救命救急処置技術(演習)	実習室1	教科書P384~404 予習120分 復習60分
22	【泉】症状・生体機能管理技術:検体検査(講義)	実習室1	教科書P410~425 予習120分 復習60分
23	【泉】症状・生体機能管理技術:検体検査(演習)	実習室1	教科書P410~425 予習120分 復習60分
24	【泉】症状・生体機能管理技術:生体情報モニタリング(講義)	実習室1	教科書P425~434 予習120分 復習60分
25	【泉】症状・生体機能管理技術:生体情報モニタリング(演習)	実習室1	教科書P425~434 予習120分 復習60分
26	【炭谷】非経口的栄養摂取の援助(講義)	実習室1	教科書P47~56 予習120分 復習60分
27	【炭谷】非経口的栄養摂取の援助(演習)	実習室1	教科書P47~56 予習120分 復習60分
28	【高橋】死のみとりの援助(講義)	実習室1	教科書P460~471 予習120分 復習60分
29	【高橋】死のみとりの援助(演習)	実習室1	エンゼルメイクの実践 予習120分 復習60分
30	【高橋】まとめ「安全に基づく看護技術の実践」	実習室1	エンゼルメイクの実践 復習120分

## 看護学科

1 年

科目名: 臨床看護概論				担当教員 氏名: 大橋 達子	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次 後期	専門科目	講義	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:		実務経験から、医学の視点ではなく、臨床の場で行われる看護の実際と看護に必要なケアの見方や考え方について、前期で学んだ知識をもとに、対象の発達段階や疾患からくる症状や生活上の問題発見となる手がかりについて学んでいく。			
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード	
発達段階や健康レベルや治療による影響から生活が変化する対象への看護がわかる。健康の破綻の時間的問題から、急性期・慢性期・回復期・終末期の特徴を理解する。また、症状による対象の反応のメカニズムとアセスメント及びケア、医療現場で身近な代表的な医療機器の原理やと実際を理解する。				対象理解、発達課題、健康障害、経過別、症状別、治療処置、看護の視点	
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 3. 5. 6. 8	
A 知識・理解力		看護で活用される理論を理解する			
C 論理的思考力		対象の特徴を情報の収集・分析・アセスメントを通して論理的に考えることができる			
E 自己管理能力		健康上のニーズを理解し、基本的な看護学の知識、技術を統合することができる			
G 倫理観		看護実践を倫理的視点でとらえることができる。			
D 問題解決力		看護の対象の特性とおこなわれている治療・処置からくる原因を推論し、問題解決思考に活かすことができる。			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: 40 %	レポート: 40 %	発表: 10 %	実技試験: %	その他: 10 %	
特記事項:					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 授業終了後に実施する。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 授業の中で適宜解説をする。					
授 業 計 画			準 備 学 習 ( 予 習 ・ 復 習 等 )		
			学 習 内 容		学習に必要な時間(分)
①科目概要について 臨床看護とは何か 看護の対象理解 健康障害と生活への影響			【予習】テキスト第1章をまとめる 【復習】授業資料を確認し、学びを整理する。		【予習】60分 【復習】60分
②健康状態の経過に基づく看護:経過別(急性期・回復期・慢性期・終末期)			【予習】テキスト第2章をまとめる 【復習】授業資料を確認し、学びを整理する。		【予習】60分 【復習】60分
③主要な症状を示す対象者への看護:機能障害(呼吸・循環・栄養代謝・排泄・活動休息・認知・コーピング・安全生体防御・安楽)に関連する症状別看護			【予習】テキスト第3章をまとめる 【復習】授業資料を確認し、学びを整理する。		【予習】60分 【復習】60分
④治療・処置を受ける対象者への看護:輸液・化学療法・放射線療法・手術療法・集中治療・創傷処置・創傷ケア			【予習】テキスト第4章をまとめる 【復習】授業資料を確認し、学びを整理する。		【予習】60分 【復習】60分
⑤医療チームと先進医療の役割と看護			【予習】テキスト付章をまとめる 【復習】授業資料を確認し、学びを整理する。		【予習】60分 【復習】60分
⑥事例による看護実践の展開			【予習】テキスト第5章を参考に事例について調べ学習する 【復習】授業資料を確認し、学びを整理する。		【予習】60分 【復習】60分
⑦事例による看護実践の展開			【予習】テキスト第5章を参考に事例について調べ学習する 【復習】授業資料を確認し、学びを整理する。		【予習】60分 【復習】60分
⑧事例による看護実践の展開:まとめ			【予習】テキスト第5章を参考に事例について調べ学習する 【復習】授業資料を確認し、学びを整理する。		【復習】120分
使用テキスト:臨床看護総論 基礎看護学④ 医学書院 ISBN978-4-260-04700-5			その他参考文献など: 疾病と看護シリーズ①—⑨ 看護がみえるVOL.5 対象の理解 I 看護がみえるVOL.4 看護過程の展開		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 臨床の場で展開される看護過程と、人の発達段階や健康の視点、治療・処置に付随する現象から、必要とされる看護を学んでほしい。					

## 看護学科

科目名: 精神看護学概論		担当教員 氏名: 坂東紀代美			
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次	後期	専門科目	講義	必修
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:		精神科病院や総合病院での勤務経験を活かして地域での生活を視座に心の健康、メンタルヘルスケア、精神障がい者への病院内、地域での支援の必要性について教授する。			
授業科目の学修教育目標の概要:					キーワード
<p>こころとからだの健康について学び、心の健康を阻害する要因や維持するために必要な知識を学ぶ。精神看護の歴史を振り返り、現代社会に求められている精神看護とは何かについて学び、精神看護のありかたについて考え、実践できる能力を身につける。</p>					精神看護、精神科看護 精神保健福祉法 心の健康と障がい 人権擁護
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (短縮マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 7. 8. 9. 10	
A 知識・理解力		精神科疾患患者に対する社会の理解と対応について、歴史的変化の変遷を知る。精神保健に関係する法制度の変遷を理解し、人権尊重の意味を理解する。			
C 論理的思考力		こころの健康に影響する要因について理解し、精神障がい者への対応について述べることができる。			
G 倫理観		精神科疾患を持つ患者に対する社会的な問題を理解し、人間尊重を基盤とした援助の在りかたを考える。			
F チームワーク・リーダーシップ		精神障がい者の地域社会への参加や共存の具体的方法を理解する。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: 70 %		レポート: 20 %		発表: % 実技試験: % その他: 10 %	
<p>特記事項:          ・授業への参加姿勢や出席状況、その他を総合して評価する。          ・アクティブラーニングの一環としてDVD鑑賞後グループ討議と発表を行う。          ・実習前課題は提出期日を厳守する。</p>					
<p>アクティブラーニング要素:</p> <p>課題解決型学習      ディスカッション、ディベート      <u>グループワーク</u>      <u>プレゼンテーション</u>      実習、フィールドワーク</p>					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:実習記録及び実践について評価し、記録は後日返却する。					
授 業 計 画			準備学修(予習・復習等)		
			学修内容	学修に必要な時間(分)	
①精神障がいについての基本的な考え方、精神保健医療福祉に関する法律を理解する。			【予習】精神障がいの考え方、法制度について熟読する 【復習】精神障がいの考え方を復習する	予習120分 復習120分	
②精神疾患の特徴、心の理解、ライフサイクルと精神保健			【予習】人間の心、人格の発達、メンタルヘルスについて熟読する 【復習】自分のメンタルヘルスについて考察する	予習120分 復習120分	
③精神看護における対人関係:現代社会とこころ			【予習】現代社会とこころについて熟読する 【復習】心の問題についてレポートする	予習120分 復習120分	
④精神科医療の特徴と精神科看護、精神科医療における倫理と人権擁護			【予習】精神医療の歴史と看護、倫理と人権擁護について熟読する 【復習】看護の倫理や人権擁護について自分の考えをまとめる	予習120分 復習120分	
⑤危機とストレスマネジメント、リエゾン精神看護			【予習】ストレスマネジメント、リエゾン、看護師について読む 【復習】看護師のストレスについてレポートする	予習120分 復習120分	
⑥精神障害者の家族の理解と支援について、地域における精神看護			【予習】家族とその支援について、社会資源について読む 【復習】地域で生活する患者と家族への支援をレポートする	予習120分 復習120分	
⑦精神の健康とは何かについてのグループ討議			【予習】精神の健康について熟読し自分の考えをまとめる 【復習】自分とチームメンバーの考えを考察する	予習120分 復習120分	
⑧精神の健康とは何かについてのグループ討議の発表			【予習】グループ発表ができるように資料づくりをしていく 【復習】発表後修正をする	予習120分 復習120分	
※試験は、別日に実施とする					
使用テキスト: 情緒発達と精神看護の基本(ナーシンググラフィカ) 978-4-8404-7541-9			その他参考文献など: 国民衛生の動向(厚生労働統計協会) 看護のための精神医学(中井久夫、医学書院)		
<p>受講上の留意点(担当者からのメッセージ):          精神的な健康問題は多種多様で拡大傾向です。心の病は現代病とも言えます。本授業でストレスや心の病を理解するとともに、どのような援助が必要なのかを主体的に学んでください。</p>					

## 看護学科

科目名： 成人看護学概論		担当教員 氏名： 岩城 直子			
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次 後期	専門科目	講義	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか： 看護師の実務経験を活かして、看護の場や対象の理解と現状について教授する。					
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード
成人看護の特性や成人期の対象を理解し、成人看護の目的・役割・機能、問題解決の方法について学ぶ					成人、成長発達の特徴、学習の特徴、生活習慣
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 3. 5. 6. 7. 8	
A 知識・理解力	ライフサイクルにおける成人の位置づけを成長・成熟・発達から考慮し、各成人期の特性を理解することができる				
C 論理的思考力	成人の特性や能力に応じた理論と基本的アプローチについて理解することができる				
D 問題解決力	講義内で行われる事例・課題に基づき、問題解決法を見出すことができる				
E 自己管理能力	自らを律して学修に臨む学修準備、体調管理ができる				
F チームワーク・リーダーシップ	グループワークを通じて各自の役割を理解し、チームに参画することができる				
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト： 60 %	レポート： 20 %	発表： 10 %	実技試験： %	その他： 10 %	
特記事項： 試験は最終講義日の講義終了後に実施する。					
アクティブラーニング要素： 課題解決型学習 <u>ディスカッション</u> 、 <u>ディベート</u> <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期： 試験は最終講義日に実施する。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法： 出席票に記載された質問・意見には、必要に応じて次回以降の授業で解説する。5～8回の授業後にGoogle Classroomから小テストをアップロードする。採点后、コメントをつけて返却する。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
①成人看護学の授業構成(概論、援助論) ライフサイクルにおける成人期の位置づけ 成人期の成長発達、成人の役割			【予習】テキスト第1章熟読 【復習】テキスト配布資料復習	【予習】90分 【復習】90分	
②青年期、壮年期、向老期の特徴と健康：(グループワーク) 成人各期の一般的特徴、成人期のライフスタイルの特徴と健康状態			【予習】テキスト第1・3章熟読 【復習】テキスト配布資料復習	【予習】90分 【復習】90分	
③青年期、壮年期、向老期に特徴的な健康問題(グループワーク)			【予習】テキスト第1・3章熟読 【復習】テキスト配布資料復習	【予習】90分 【復習】90分	
④成人各期の特徴と健康、特徴的な健康問題：(グループ発表)			【予習】テキスト第1・3章熟読 【復習】テキスト配布資料復習	【予習】90分 【復習】90分	
⑤成人を取り巻く社会環境と成人の生活からみた健康			【予習】テキスト第2章熟読 【復習】テキスト配布資料復習	【予習】90分 【復習】90分	
⑥成人の健康の動向と保健・医療・福祉政策			【予習】テキスト第3章熟読 【復習】テキスト配布資料復習	【予習】90分 【復習】90分	
⑦成人期にある人と家族のため、看護アプローチの基本			【予習】テキスト第4章熟読 【復習】テキスト配布資料復習	【予習】90分 【復習】90分	
⑧健康行動への行動変容—成人に対する健康学習支援			【予習】テキスト第4章熟読 【復習】テキスト配布資料復習	【予習】90分 【復習】90分	
⑨					
⑩					
⑪					
⑫					
⑬					
⑭					
⑮					
使用テキスト： 成人看護学概論・成人保健、メヂカルフレンド社 黒江ゆり子編、ISBN978-4-8392-3364-6			その他参考文献など：		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： テキストを活用し、予習復習を必ず行いましょう					

## 看護学科

科目名： 高齢者看護学概論			担当教員 氏名： 米山美智代			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次	後期	専門科目	講義	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか： 総合病院での臨床経験や看護管理の実務経験を活かして、高齢者と保健医療介護の現状について教授する。						
授業科目の学習教育目標の概要： 高齢者は個人差が大きく、過去の生活環境、体験や罹病の違い、その中で形成された生活習慣や信念による。現実となってきた「人生の最終ステージにある」という思いはまさに個人のものである。高齢者の特徴について、加齢による心身の変化及び社会的側面からみた高齢者の立場を理解し看護師としての役割を学ぶ。						キーワード
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		5. 6. 8	
A 知識・理解力			加齢による変化と高齢者の健康に係わる保健、医療、福祉に関する国内の動向を理解する			
C 論理的思考力			高齢者を取り巻く環境と課題を理解し、その対策についてを考え、述べることができる			
D 問題解決力			高齢者看護の基本を理解し、グループ学習の中で自己の考えを論理的に説明できる			
G 倫理観			看護職として高齢者の権利擁護に基づき公正な判断ができる			
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 70 %		レポート： 20 %		発表： %		実技試験： %
その他： 10 %						
特記事項：						
アクティブラーニング要素： 課題解決型学習      ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション      実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期： 毎回授業後に小テストを実施する。レポート課題提出は1回実施する。すべての授業終了後に本試験を実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法： 小テストや授業態度評価の中間評価をフィードバックする。レポート、本試験の結果をフィードバックする。						
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)			
			学習内容		学習に必要な時間(分)	
①超高齢社会と社会保障① 超高齢社会の現状			【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】講義資料の要点を整理する		【予習】60分【復習】60分	
②超高齢社会と社会保障② 腸高齢社会における保健医療福祉の動向			【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】講義資料の要点を整理する		【予習】60分【復習】60分	
③高齢者の尊厳と権利擁護			【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】講義資料の要点を整理する		【予習】60分【復習】60分	
④老いるということ、老いを生きるということ 老年期の発達課題			【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】講義資料の要点を整理する		【予習】60分【復習】60分	
⑤高齢者のヘルスアセスメント① 高齢者にみられる生理的加齢変化			【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】講義資料の要点を整理する		【予習】60分【復習】60分	
⑥高齢者のヘルスアセスメント② 高齢者にみられる病的加齢変化とフィジカルアセスメント			【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】講義資料の要点を整理する		【予習】60分【復習】60分	
⑦高齢者のヘルスアセスメント③ 高齢者にみられる病的加齢変化とフィジカルアセスメント			【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】講義資料の要点を整理する		【予習】60分【復習】60分	
⑧エンドオブライフケア			【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】講義資料の要点を整理する		【予習】60分【復習】60分	
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						
使用テキスト： ①系統看護学講座 老年看護学 医学書院 北川公子、ISBN978-4-260-03186-8C3347②高齢者のフィジカルアセスメント、角濱春美、ISBN978-4-8404-6142-9				その他参考文献など：		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 家族、親族、ボランティア等で高齢者と接する機会を意図的に作り、高齢者理解に努めてください。						

## 看護学科

科目名: 小児看護学概論			担当教員 氏名: 山元 恵子			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次	後期	専門科目	講義	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:			国立小児病院・国立成育医療研究センターの看護管理者・医療安全管理者等の実務経験及び、小児看護技術の教本の監修者として講義を行う			
授業科目の学修教育目標の概要:					キーワード	
<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの基本的な成長・発達について理解する。</li> <li>日本の少子化問題と政策、今後の子どもに係わる課題について理解する。</li> <li>専門職として必要な小児看護の基本的な知識と技術を修得する。</li> </ul>					成長と発達 子どもの最善の利益 アドボカシー インフォームドアセント	
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 7. 8.	
A 知識・理解力			①小児の健康と発達に係わる保健、医療、福祉、教育に関する国内の動向を理解する。			
C 論理的思考力			③小児を取り巻く環境と課題を理解し、その対策についてを考え、述べることができる。			
D 問題解決力			④小児看護の基本を理解し、グループ学習の中で自己の考えを論理的に説明できる			
G 倫理観			⑤看護職として子どもの最善の利益に基づき公正な判断ができる。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %		レポート: 20 %		発表: 20 %		実技試験: %
						その他: 10 %
特記事項: 評価のその他については、出席状況や授業内の主体的な姿勢を加味し評価する。 小児看護学の基本的知識は100点を獲得するまで再テストを繰り返す。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学修      ディスカッション、ディベート      グループワーク      プレゼンテーション      実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 各教員の単元終了後に定めた日時に実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: テストや提出レポートに評価の数値化やコメントを記載して返却						
授 業 計 画				準備学修(予習・復習等)		
				学修内容	学修に必要な時間(分)	
①【山元】小児看護学と小児・母性の疾病管理論との連携についてのガイダンス						【予習】60分 【復習】60分
②【山元】母子手帳から自己の成長・発達の記録から				【予習】テキストの該当箇所を読む		【予習】60分 【復習】60分
③【山元】愛着形成のプロセスと家族愛				【復習】配布資料の確認と復習		【予習】60分 【復習】60分
④【山元】各ステージの成長と発達-グループワーク-				グループワークではメンバー全員で課題を仕上げる		【予習】60分 【復習】60分
⑤【山元】新生児期・乳児期・幼児期の特徴と成長発達-グループ発表会-				【成果】		【予習】60分 【復習】60分
⑥【山元】学童期・思春期・青年期の特徴と成長発達-グループ発表会-				すべての発表資料を全員が共有できるように冊子を作成		【予習】60分 【復習】60分
⑦【山元】子どもと家族の最善の利益を考えた支援とアセスメント						【予習】60分 【復習】60分
⑧【ゲストスピーカー 上原】海外の子どもと家族の理解と社会環境と課題						【予習】60分 【復習】60分
⑨【山元】全体のまとめ・試験						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						
使用テキスト: ・系統看護学講座 小児看護概論① 医学書院 ISBN 978-4-260-04087-7 C3347				その他参考文献など: こども家庭庁からの子どもと家族の基礎データ 日本ユニセフ協会からの統計データ 子どもの権利条約と世界子供白書		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ・小児看護を好きになることよりも、「小児看護を得意科目」にできるように看護師として子どもに対する基本的知識の獲得を支援します。						

看護学科				1年		
科目名: 母性看護学概論				担当教員 氏名: 稲垣尚恵、山本朋子		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次	後期	専門科目	講義	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:			母性看護の対象は、女性のライフサイクル全般と家族の健全な構築を目的としている。女性の各ライフサイクルの特徴と社会背景について、実際の事例についての話も取り入れつつ、今後の母性看護の在り方について考えられるための資料や機会の提供を行う。			
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
母性看護学は女性のライフサイクルと女性をとりまく環境を理解し、母性看護に必要な能力の習得を目指す。 本講では母性看護学の導入として、母性および母性看護学の概念を理解し、母性看護の基本的な考え方について学習する。 また、母性看護の対象はあらゆる人づくりの基礎をなす広義の母性である。女性の一生にわたる母性機能の発達とその時期に応じた健康問題について看護学とその関連領域の概念枠組みを用いながら理解を深める。 さらに統計から見た母性看護の動向をさぐり課題を考える。					ライフサイクル、女性、家族、セクシュアリティ、生殖	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5		
A 知識・理解力	母性看護の基礎的知識を理解する。					
B 専門的技術	母性看護における対象把握の必要性を理解する。					
D 問題解決力	自身のライフステージを基にライフサイクル各期の女性の健康問題について考える。					
E 自己管理能力	自身の性機能の健康管理について理解する。					
G 倫理観	リプロダクティブヘルス/ライツについて理解する					
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 90 %	レポート: %	発表: %	実技試験: %	その他: 10 %		
特記事項:						
アクティブラーニング要素: (課題解決型学習) ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 課題は授業で指示する。授業の理解を確認するために適宜ミニテストを実施する。科目最終試験は8回終了後に実施するので日程を確認すること。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 返却時にコメントを提示します。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
①母性の基盤となる概念 母性、母性看護				シラバス・テキストの熟読	180分	
②母子関係、家族発達				テキスト・関連資料の熟読	180分	
③セクシュアリティ、リプロダクティブヘルス/ライツ				テキスト・関連資料の熟読	180分	
④母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状				テキスト・関連資料の熟読	180分	
⑤女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化				テキスト・関連資料の熟読	180分	
⑥母性看護に必要な看護技術				テキスト・関連資料の熟読	180分	
⑦女性のライフステージ各期における看護				テキスト・関連資料の熟読	180分	
⑧リプロダクティブヘルスケア				テキスト・関連資料の熟読	180分	
使用テキスト: ①森恵美 系統看護学講座: 専門分野 母性看護学概論 母性看護学[1] ISBN978-4-260-06198-8 ②森恵美 系統看護学講座: 専門分野 母性看護学各論 母性看護学[2] ISBN978-4-260-06197-1				その他参考文献など: 国民衛生の動向		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 女性、子ども、家族、社会について歴史の視点からの読書をすすめます。映像資料を用いた授業も行います。事前にテキストを熟読してください。						

## 看護学科

科目名: 地域・在宅看護援助論			担当教員 氏名: 今川 孝枝			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次	後期	専門科目	演習	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 病院や施設などの実務経験を活かして、地域・在宅で暮らす人々の理解、生活支援のあり方について教授する。						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
地域と在宅の場の特徴を知り、あらゆる人々が住み慣れた地域で暮らし続けるために、多様な健康を支える看護職の役割と支援方法を学ぶ。さらに、在宅看護における安全と健康危機管理について学ぶ。					地域特性 生活支援 健康レベル 健康危機管理	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (短縮マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 8.	
A 知識・理解力			地域・在宅看護の対象者の特性とその支援方法の基本を理解する			
C 論理的思考力			フィールドワーク、グループワーク、討論を行うことをとおして論理的思考力、問題解決力、チームワーク、コミュニケーション力を養う			
D 問題解決力						
F チームワーク・リーダーシップ						
H コミュニケーション力						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %		レポート: 30 %		発表: 10 %	実技試験: %	その他: 10 %
特記事項: 本科目はアクティブラーニングの一環として、フィールドワーク、グループワーク、討論により理解を深めることを狙いとしています。その他10%は取り組み具合を評価します。						
アクティブラーニング要素:						
課題解決型学習      ディスカッション、ディベート      グループワーク      プレゼンテーション      実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 最終試験は別に定めた日時に実施します。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 課題は後日返却します。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
①地域・在宅看護の対象と援助技術の特徴 在宅療養生活を支える基本的な援助技術				【予習】テキスト2第3.4.5章熟読 【復習】授業の振り返り	【予習】60分 【復習】60分	
②在宅療養生活を支える基本的な援助技術 訪問看護				【予習】テキスト2第1章熟読 【復習】授業の振り返り	【予習】60分 【復習】60分	
③疾患・病期に応じた看護				【予習】テキスト2第2章熟読 【復習】授業の振り返り	【予習】60分 【復習】60分	
④疾患・病期に応じた看護				【予習】テキスト2第2章熟読 【復習】授業の振り返り	【予習】60分 【復習】60分	
⑤障害者・福祉用具・住宅改修の理解				【予習】テキスト2第3.4章熟読 【復習】授業の振り返り	【予習】60分 【復習】60分	
⑥障害者・高齢者疑似体験、福祉用具体験				【予習】テキスト2第3.4章熟読 【復習】授業の振り返り	【予習】60分 【復習】60分	
⑦地域で生活する人々の理解(特別講師:当事者による実体験を聴講)				【予習】当事者の疾患等について学習 【復習】授業の振り返り	【予習】60分 【復習】60分	
⑧在宅療養における安全と危機健康管理、災害対策				【予習】テキスト1第8章、2第6章熟読 【復習】授業の振り返り	【予習】60分 【復習】60分	
⑨地域調査 グループ				【予習】テキスト1第1章3熟読 【復習】授業の振り返り	【予習】60分 【復習】60分	
⑩地域調査 グループ				【予習】テキスト1第1章3熟読 【復習】授業の振り返り	【予習】60分 【復習】60分	
⑪地域調査 グループ(発表準備)				【予習】テキスト1第1章3熟読 【復習】発表準備	【予習】60分 【復習】60分	
⑫地域調査 グループ(発表準備)				【予習】テキスト1第1章4熟読 【復習】発表準備	【予習】60分 【復習】60分	
⑬地域調査 グループ発表				【予習】発表準備 【復習】授業の振り返り	【予習】60分 【復習】60分	
⑭地域調査 グループ発表				【予習】発表準備 【復習】授業の振り返り	【予習】60分 【復習】60分	
⑮まとめ				【予習】課題遂行 【復習】授業全体の振り返り	【予習】60分 【復習】60分	
使用テキスト: 1. ナーシンググラフィカ地域・在宅看護論① メディカ出版 ISBN978-4-8404-7543-3 2. ナーシンググラフィカ地域・在宅看護論② メディカ出版 ISBN978-4-8404-7544-0				その他参考文献など: 在宅看護技術、メジカルフレンド社、正野逸子・本田彰子 ISBN978-4-8392-1679-5c3347		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 日頃からメディア・新聞・地域等の情報に関心を持ちましょう。						

## 看護学科

科目名: 基礎看護学実習 I				担当教員 氏名: 高橋絹代とりまとめ 他		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次	後期	専門科目	実習	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 自己学習能力を強化しつつ、自ら創造性のある学びができるよう、教員と指導者からの助言を得ながら学習が進められる方法としている。						
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
病院での実習を通して医療施設と医療従事者及び患者の生活の概要を知る。また、生活行動に障害のある入院患者の生活援助の実際を学び、今後の学習へのイメージ形成と動機付け強化をねらいとする。(臨地実習)						<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院の概要</li> <li>・医療従事者</li> <li>・基礎看護技術</li> <li>・生活行動援助技術</li> </ul>
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		5. 6. 7. 8. 9. 10	
A 知識・理解力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習病院の特徴と地域における役割を述べることができる</li> <li>・病院に働く人々とその役割について述べることができる</li> <li>・看護師として必要な知識・技術・態度についてイメージする</li> </ul>					
B 専門的技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入院患者に提供されている生活援助項目を見学、一部実施できる</li> <li>・スタンダードプリコーション、バイタルサイン測定の基本的方法が実践できる</li> </ul>					
C 論理的思考力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の入院前の生活と入院後の生活の違いについて述べるができる</li> <li>・患者の現在の生活における不都合について述べるができる</li> </ul>					
C 論理的思考力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の入院前の生活と入院後の生活の違いについて述べるができる</li> <li>・患者の現在の生活における必要な援助について述べるができる</li> </ul>					
H コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院職員や受け持ち患者と良好な人間関係を築くことができる</li> </ul>					
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %	レポート: 80 %	発表: %	実技試験: %	その他: 20 %		
特記事項: 以下により総合的に評価する。・出席状況 ・実習記録類 ・課題レポート ・実習中の学習態度 * 提出物は期限を厳守すること。* 原則として遅刻、欠席は認めない。						
アクティブラーニング要素:						
課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 担当教員が毎日記録や学習状況を確認し、適時学生へ指導する。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
1年 後期 1単位 45時間						
【実習予定病院】				提示した事前課題による予習	予習120分 復習90分	
厚生連高岡病院				実習施設での実施内容は記録用紙に記載		
高岡市民病院				生活行動援助技術の修得		
済生会高岡病院				スタンダードプリコーションは1人で実施levelに練習し実習に臨む		
射水市民病院						
済生会富山病院				バイタルサインは指導者の下、実施できることを目指す		
富山協立病院						
かみいち総合病院						
使用テキスト:				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 看護は実践の学問といわれます。基礎的知識をもとにした応用力が求められます。実際の現場から、知識を関連させられる力が持てるよう能動的な学習姿勢をもって臨んでください。学習や記録の仕方、患者さんや実習施設職員との関わり方等、知識・技術・態度について考える実習としてください。学習管理能力として、まずは自らの体調管理、時間管理ができるコントロール力をつけてのぞみましょう。						